

## 問題 1

### 出題の意図

今回の日本語小論文試験では、「ジェンダー・ギャップ指数」経済分野の重要な指標の一つである男女間賃金格差について論じた日本経済新聞の朝刊記事を取り上げた。

ジェンダー・ギャップ指数については、毎年メディアで報道され、高校生でも目にする機会が多い指数であると思われる。様々な分野での男女間格差が大きく、先進諸国の中で日本が常に下位にランクされる状況について、国際商経学部 経済学・経営学コースで学ぶことを志願する高校生であれば、その改善策についてもそれなりの意見を持っていることが期待される。問題文では、先進諸国や EU・OECD、日本政府、そして先進的な企業など様々な角度からの具体的な施策を例示している。本問題では、男女間賃金格差の是正といういささか難しいテーマではあるが、本文を読み込み、その例示を参考に、自らの考えを具体的な政策提案としてまとめる能力を問うた。

## 問題 2

### 出題意図

英文を読み解き大意を把握する力、自らの考えを論理的かつ明確に論述する力を、それぞれ把握することを出題の意図としている。今年度は Lisa Pham の “Cleaner Clothing Dye, Made From Bacteria” という Blooming Businessweek US の 2023 年 3 月 20 日号の論稿の一部を抜粋して課題文として提示した。脚注、語彙の置き換え、文章の省略など、大学受験レベルの語彙力に合わせた若干の調整を行っている。Colorifix 社のバイオ技術を用いてバクテリアの遺伝子配列を操作し、自然界で見られる色を再現することによって従来の方法で繊維を染色するよりも使用される水を大幅に節約し、二酸化炭素や他の有害な化学物質の排出を抑えるという内容。問 1 では、課題文の一部 “its not a perfect solution” に下線を引き、なぜそう言えるのかを問う。この河川部までの文章の題意を把握していれば適切な解答を導くことができる。全訳にならないように、字数制限を設けている。問 2 では、この Colorifix の技術をファッション分野でどのように生かすかを問うている。課題文後半を理解できていれば、適切な解答を導くことができる。